

第67号議案、平成31年度古賀市介護保険特別会計決算の認定について、賛成の立場で討論する。

介護保険特別会計は、歳入決算は38億6125万3千円、歳出決算は37億930万9千円で、差し引き1億5194万4千円の黒字となっています。基金積立は1036万8千円で基金残高は5億5045万円となっています。

詳細質疑を行いました。財政状況は概ね妥当であり、不認定とすべき事案はなく、認定することに賛成します。

その上で改善または拡充すべきことを指摘します。

①健康づくり推進員の拡充対策

2019年度末の健康づくり推進員は45人とのことでした。各地域における健康づくり推進員の役割は大変重要となります。自主的にかつ献身的に活動される方々に心から敬意を表します。

私はかなり前から提案していますが、各行政区2人、任期は2年、市長の委嘱で年間1万円程度の報酬。46行政区ですから92人、今後10年で460人が経験を積み、各地域に蓄積されることとなります。

割り当てという面もありますが、魅力的な活動であることから次第に意識や行動が変容することが期待されます。思い切った対策に舵を切ることを求めておきます。

②認知症対策について

古賀市では要介護認定者が2052人で、うち認知症高齢者が1393人であることがわかりました。2020年3月末時点のデータです。

初期集中チーム員会議が年4回開催され、認知症と診断されていない9人を支援した実績が報告されました。早期発見、早期対応に努めることができたと評価しています。

しかし今後認知症高齢者が増加し、対応が難しくなることが予想されます。市として本格的な対応を実施することが求められています。

来年度から3中学校区に包括支援センターが設置されより地域に密着した取り組みが期待されます。

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施が展開されようとしています。来年度以降、介護支援課、予防健診課、福祉課等がどのような体制で新たな取り組みに対応されるのか注目します。

その中で、認知症対応、認知症になっても安心して暮らせる古賀市、ユマニチュードなど認知症の方への接し方の教育普及などに本格的に取り組むことを求めておきます。

保健師や管理栄養士などの専門職の役割を正しく評価し、専門職の本領を発揮できる職場環境を整えることを強く求めておきます。

以上、評価、拡充、改善が2021年度、令和3年度予算に着実に反映されることを求め賛成討論とします。